

施工BIMで 連携をスムーズに

— 連携手引きを発行 —

日本建設業連合会（日建連）の建築生産委員会IT推進部会BIM専門部会は昨年十二月、施工段階においてBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）を活用する際の手引き「施工BIMのスタイル—施工段階における元請と専門工事会社の連携手引き二〇一四—」を発行した。

BIMモデルの活用については「設計から施工まで一貫して使わないと効果がでない」とも言われてきたが、施工段階からBIMモデルを活用するメリットは十分にあると考えており、具体的には①工事関係者間の合意形成、②干渉チェック・納まり確認、③施工性検討・施工シミュレーション、④図面作成の省力化、⑤図面承認の効率化、⑥コストの透明化などが挙げられる。しかし、これまでの施工BIMは、明確な作業目的がないままに活用が進み、元請と専門工事会社間で負担が偏ったり、不要な作業をする

場合が少なからず見受けられた。

そこで今回、元請と専門工事会社の相互が施工者のメリットを享受するために、連携して作業を進めるプロセスなどを明確にした。また、BIMの初心者でも読みやすいように、図版、イラストなどを多用し、理解が深まるように工夫した。

手引きの内容

手引きの内容は①施工BIMで何を指すのか、②成功させるための手順、③工事別の施工BIM、④鉄骨造オフィスビルにおける製作図レベルでのBIMモデルの活用、⑤元請、専門工事会社が取組んだ施工BIMの概要や成功のポイント（十二件の事例）、⑥施工BIMの効果リスト・書式ひな形、とした。

施工BIMの効果リストでは、二次元検討よりもBIMを活用した方が効果を期待できる事

例として、建設工事の十四工種、全百九項目をまとめた。また、作業前のチェックリストとしてすぐに活用できる「BIM連携計画書」などの書式も掲載した。

BIMモデル合意

今回、施工BIMの新たな運用方法として「BIMモデル合意」を提示した。各工種の専門工事会社が作成したBIMモデルを元請が統合し、これを見ながら干渉確認や施工性検討などをおこない課題を解決する。これにより、打合せ用の二次元図面の削減や無理のない納まりにつながるなど、施工BIMのメリットをさらに享受することができる。

今後BIM専門部会では、本手引きを紹介するセミナーなどを通じて、建設業における施工BIMのメリットを広く周知していく。



施工BIMのスタイル — 施工段階における元請と 専門工事会社の連携手引き 2014 —

会員 1,000 円
非会員 3,000 円
ホームページより申込み